

1 土間

土間に入ると、古民家の屋内の暗さや外との温湿度の違いを感じられます。踏みしめられた足元だけでなく、ぜひ上も見上げてください。天井がはられていなければ、屋根の裏の傾斜や梁の組み方がよく見えます。

2 柱や鴨居^{かもい}

土間に面して立つ太い大黒柱や、梁、鴨居など、建物の中からは、古民家の骨組みになる木材がよく観察できます。幅広の差鴨居などをみると、もとはどんな巨木だったんだろうと思うこともしばしば。

3 床のしつらえ^{とこ}

床の間があったら、ぜひしつらえを楽しんでください。床の壁の色漆喰^{いろじっくい}や、欄間^{らんま}、付書院^{つけしょいん}の格子^{こうし}、釘隠しの銚^{かざり}など、細かなところもお見逃しなく。

4 季節のしつらえ

季節にあわせて年中行事の再現を行っている古民家も多くあります。例えば、1月には正月や繭玉団子の飾りつけ、2月には節分行事、3月には雛飾りなど。

5 天井

ときどき上を見上げて、天井も見てみましょう。根太^{ねだ}(梁)にしっかりした板が入った根太天井、薄い天井板で華奢な印象の竿縁^{さおぶち}天井、竹簀子^{たけすのこ}天井など、仕上げもいろいろ。根太天井は、その上で人が作業できる頑丈さがあり、天井裏を物置きや作業場に利用できます。9区の古民家の中には、洪水の際の避難所などに利用していたところもあります。

古民家建築の見どころ （中から眺めてみる）



根太天井



竿縁天井



竹簀子天井